

一般財団法人 広島県環境保健協会 健康科学センター

# 事業年報

平成 26 年度（2014 年度）

## 目次

I.平成26年度事業計画の基本事項	1
II.協会運営	3
III.健康科学センター事業実績（分野別計画に係る特筆事項）	5
IV.社会貢献活動	18
V.関係団体事業への参加	22
VI.事業報告の附属明細書について	23

## I. 平成 26 年度事業計画の基本事項

### 1. 基本理念

一般財団法人広島県環境保健協会の基本理念は、次のとおりである。

みんなの生命（いのち）をまもりたい。

私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、  
地域社会の発展に貢献します。

### 2. 第 1 次経営ビジョン

10 年後の協会のあるべき姿をまとめた、第 1 次経営ビジョン（25 年度から 34 年度）は次のとおりである。

#### 《社会と共に》

##### ■住民による公衆衛生活動を支援する環保協

県内の公衆衛生推進協議会をはじめとする各種団体の活動を積極的に支援し、住みよいまちづくりに取り組みます。

##### ■健やかで安全・安心な暮らしを創る環保協

時代のニーズに対応した事業を通して、健康づくりと安全で安心して暮らせる生活環境づくりに取り組みます。

##### ■社会に認められる環保協

広く環保協の存在意義を認知してもらうために、社会貢献活動や広報活動にも積極的に取り組みます。

#### 《お客さまと共に》

##### ■お客さまが感動するサービスを提供する環保協

常にお客さまの声に耳を傾け、感動していただけるサービスが提供できるよう真摯に取り組みます。

##### ■確かな技術と豊富な知識でどのような声にも応えられる環保協

これまでに培った技術と知識に加え、新しい技術を取り入れながら、さまざまな要望にお応えできる体制づくりに取り組みます。

#### 《職員と共に》

##### ■職員が知恵と経験を共有している環保協

協会の目的を達成するために、職員一人ひとりの知恵と経験をチームで共有し、あらゆる問題の解決に取り組みます。

##### ■一人ひとりがプロである誇りを持っていきいき働ける環保協

環保協の職員であることの自覚のもと、社会的責任を果たし、いきいき働ける職場環境づくりに取り組みます。

##### ■公益事業を展開するための安定した経営ができる環保協

公益事業を展開するために、収益力の強化と時代の変化に耐えられる体制を整え、安定した経営に取り組みます。

### 3. 健康科学センター重点方針および戦略項目

25年度から27年度の3カ年度に取り組む事業の基本となる、健康科学センターの第1期重点方針および26年度の戦略項目は次のとおりである。

#### (1) 重点方針

- ① ミス・クレーム防止の体制およびシステムの強化を図る。
- ② 健康づくりにおける価値を創造し、他機関との差別化を図る。
- ③ 施設健診と巡回健診の増収を図る。
- ④ 顧客満足度の向上によりリピーターを確保する。
- ⑤ 地域活動支援センターとの連携による公衆衛生活動支援事業を提案する。

#### (2) 戦略項目

- ① 産業保健事業の充実
- ② 新商品開発への検討・取り組み
- ③ 経費の削減（委託費の収入対比）
- ④ 個別原価管理体制の構築
- ⑤ 施設のアメニティの充実
- ⑥ 精度管理の徹底と第三者機関による信頼性確保
- ⑦ 企業・地域・公衛協に対する健診結果のフィードバックと指導
- ⑧ 施設整備（健診車、分析装置などの計画的更新）
- ⑨ 健診システムの統合による情報処理の合理化
- ⑩ 工程管理の見直し・是正
- ⑪ 職員の育成（接遇含む、職員研修計画の充実）
- ⑫ 地域活動支援センターとの連携

## II. 協会運営

### 1. 評議員および役員

#### (1) 評議員の就任状況

平成 27 年 3 月現在

区 分	氏 名	所属団体職名
評 議 員	井 上 浩 一	中国新聞社販売局長
〃	井 竹 永 靖 正	中国税理士会広島西支部支部長
〃	鈴 木 勝 治	公益財団法人公益法人協会専務理事
〃	田 中 純 子	広島大学大学院教授（医歯薬学総合研究科）
〃	隅 井 浩 治	済生会広島病院院長
〃	渡 邊 弘 司	一般社団法人広島県医師会常任理事
〃	岡 田 光 正	放送大学教授
〃	中 越 信 和	広島大学大学院教授（国際協力研究科）
〃	今 岡 務 幸	広島工業大学教授（地球環境学科）
〃	中 野 宏 幸	広島大学大学院教授（生物圏科学研究科）
〃	斉 田 富 久 栄	広島県食生活改善推進員団体連絡協議会前会長
〃	大 上 利 太	府中市公衆衛生推進委員会連合会会長
〃	村 田 吉 三	尾道市公衆衛生推進協議会会長
〃	縫 部 洋 耀	坂町公衆衛生推進協議会会長

※評議員全 14 人、定足数 8 人（過半数）。選任数範囲は 10 人から 17 人

※岡田孝裕評議員は、6 月 28 日で辞任

#### (2) 役員の就任状況

平成 27 年 3 月現在

区 分	氏 名	所属団体職名
理 事	近 光 章	一般財団法人広島県環境保健協会理事長
〃	岡 本 利 貴	一般財団法人広島県環境保健協会常務理事
〃	中 元 啓 三	一般財団法人広島県環境保健協会理事兼事務局長
〃	木 原 敏 博	公益社団法人広島県獣医師会副会長
〃	山 木 戸 道 則	中国税理士会税理士
〃	川 平 伴 勅	一般財団法人ひろぎん経済研究所理事長
〃	平 野 勝 正	広島商工会議所相談員、中小企業診断士、デファクト・コンサルティング代表
〃	瀬 尾 敏 治	福山市公衆衛生推進協議会会長
〃	梅 澤 恵 子	大崎上島町公衆衛生推進協議会会長
〃	宮 本 英 暉	庄原市公衆衛生推進協議会会長
監 事	河 野 隆	広島総合法律会計事務所公認会計士
〃	島 本 博 基	呉市公衆衛生推進協議会理事

※理事全 10 人、定足数 6 人（過半数）。選任数範囲は 7 人から 12 人

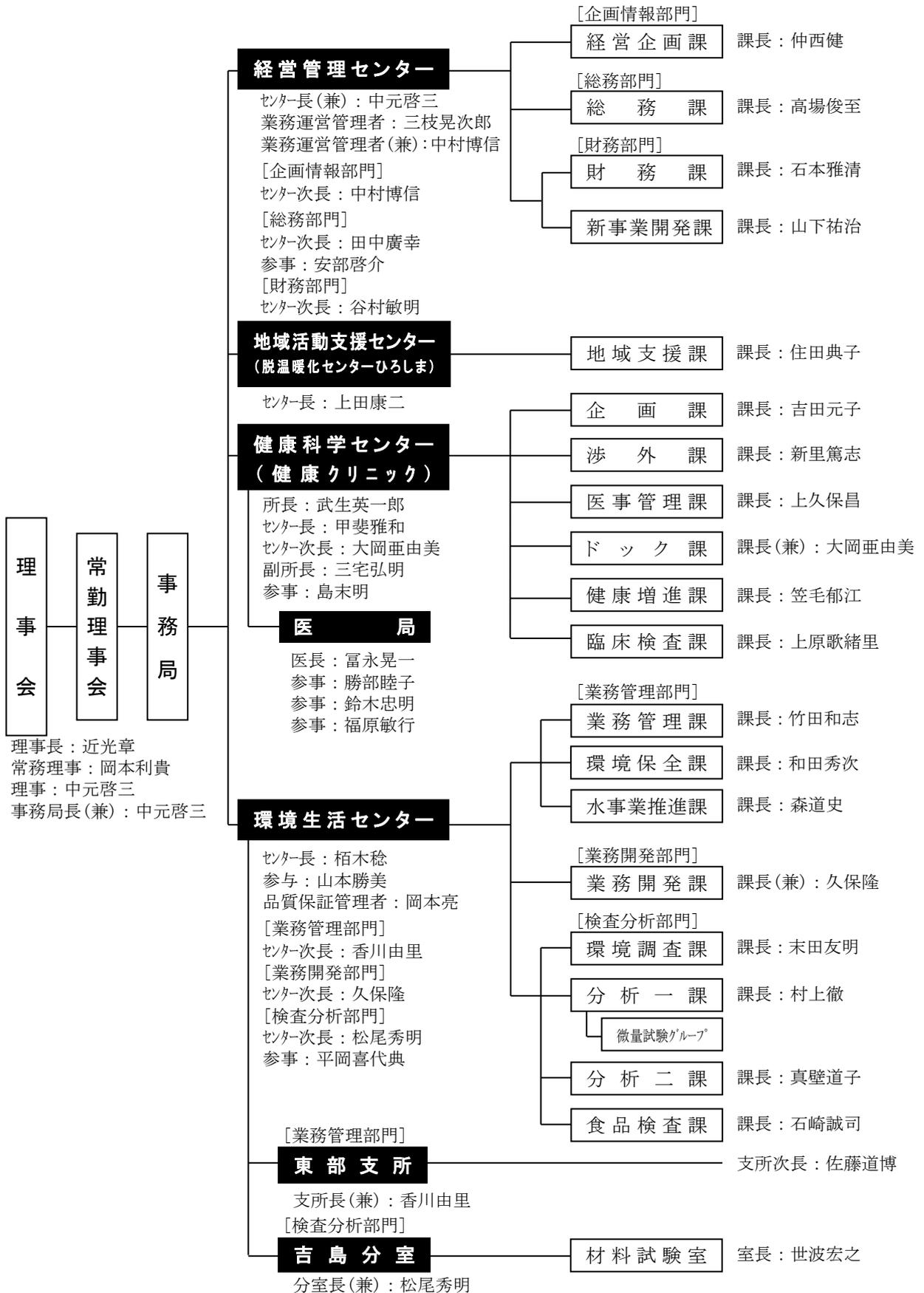
※監事全 2 人、選任数範囲は 2 人から 3 人

### 2. 事務局組織

26 年度は、組織改編は行わず、環境生活センターの部門を一部見直し、「分析一課」と「微量試験室」を統合した。また、水道事業の一元管理による水質検査業務の安定受託をめざし、8 月 8 日付で環境生活センター内に「水事業推進課」を新設した。

27 年 3 月 31 日現在の職員数は 223 人であり、組織図は次頁のとおりである。

【事務局組織図（27年3月31日現在）】



### Ⅲ. 健康科学センター事業実績（分野別計画に係る特筆事項）

#### 1. 禁煙支援事業 ～脱煙（禁煙）外来～

##### (1) ねらい

人間ドック受診者およびその他禁煙希望者を対象に、保険診療・自由診療で禁煙補助薬とカウンセリングによる禁煙指導を実施し、禁煙を支援する。

##### (2) 実績

平成 26 年度新規受診者 4 人、脱煙（禁煙）外来実施者 延べ 205 人

##### (3) 評価

平成 26 年度新規受診者は 4 人で、昨年度と同数であった。新規受診者数は、この 5 年間で昨年度と同様に最も少なかったが、平成 26 年度新規受診者の中には職場の禁煙支援制度で助成金を利用し、禁煙外来を利用された方もいた。社会の禁煙への風潮により、今後も禁煙外来への需要は高まるものとする。平成 27 年度禁煙セミナーの開催が決まっている健保組合もある。人間ドック受診者、特定保健指導の対象者への受診勧奨、睡眠時無呼吸症候群、動脈硬化症、肺機能低下等の疾患の治療とも連動させ、外来受診者増を目指している。

#### 2. 特定保健指導

##### (1) ねらい

メタボリックシンドロームを対象に、生活指導（集団または個別）、通信を利用した継続支援により、行動変容を促し減量を達成することを目的とした特定保健指導を健康保険組合、共済組合との契約により来所（人間ドック当日、後日）および巡回式で実施した。

##### (2) 対象

(i)の条件を満たし、(ii)から(iv)のうち2項目以上に該当する方（ただし、治療中の方は原則対象から除外する）

抽出項目	内 容
(i) 腹囲 BMI（体格指数）	腹囲男性 85cm 以上、女性 90cm 以上 または BMI25.0 以上
(ii) 血糖	空腹時血糖 100～125mg/dl 健診時に随時血糖の場合 HbA1c 5.6～6.4%
(iii) 収縮期血圧 拡張期血圧	最高血圧 130～159mmHg または 最低血圧 85～94mmHg
(iv) 高トリグリセライド 低 HDL コレステロール	TG150mg/dl 以上 または HDL-c 40mg/dl 未満

##### (3) 特定保健指導 A 事業

「6 カ月でできる健康づくり～メタボリックシンドローム改善セミナー～」

##### a. フロー

##### ◎積極的支援

区 分	実施項目	実施内容
初 回	個別指導【30 分】 (+検査 15 分)	計測・内臓脂肪測定または肥満遺伝子検査 個別指導「メタボリックシンドロームについて」「栄養・運動の基礎知識」 行動目標の設定 血圧計配布、自己測定の方法説明 ポイントカード配布・説明

◎積極的支援（続き）

区 分	実施項目	実施内容
1 カ月後	メール or 郵送（1 回目）	取り組み状況調査（体重、腹囲、生活習慣、 血圧自己測定値について調査） 取り組み状況に応じた支援アドバイス
2 カ月後	メール or 郵送（2 回目）	励まし・支援コメント
3 カ月後	個別指導【30 分/人】	第 2 回個別指導（中間面接） （取り組み状況確認、支援アドバイス、目標 修正、禁煙指導）
4 カ月後	メール or 郵送（3 回目）	取り組み状況調査（体重、腹囲、生活習慣、 血圧自己測定値について調査） 取り組み状況に応じた支援アドバイス
5 カ月後	メール or 郵送（4 回目）	励まし・支援コメント
6 カ月後	改善度評価検査 結果報告（郵送）	計測・血液検査・アンケート調査・内臓脂肪 測定検査 検査結果・修了証郵送、今後に向けてのアド バイス
9 カ月後	メール or 郵送（5 回目）	フォローアップ （継続的な取り組み状況の確認、アドバイス）

◎動機付け支援

区 分	実施項目	実施内容
初 回	集団指導【90 分】	計測 集団指導「メタボリックシンドロームについ て」「栄養・運動の基礎知識」
6 カ月後	評価調査（郵送）	取り組み状況調査（体重、腹囲、生活習慣、 目標の達成度について調査） 取り組み状況に応じた最終アドバイス

b. 目標

- 1)メタボリックシンドロームの改善（血液データの正常化、体重 5 %減量、腹囲 5 cm 減少）
- 2)生活習慣の見直しと改善

c. 結果

《平成 26 年度実施状況 合計：21 市町、104 グループ》

支 援	初回指導実施者数（人）	最終評価実施者数（人）
積極的	319	—
動機付け	172	—

《特定保健指導実施市町数および参加者数の推移》

区分（年度）	19	20	21	22	23	24	25	26
実施市町数	21	2	11	18	25	23	23	21
グループ数	31	11	55	100	132	93	94	104
参加者数（人）	336	86	427	741	824	490	490	491

d. 評価

平成 25 年度は 23 市町 94 グループ、490 人の参加を得て特定保健指導を実施した。11 月より内臓脂肪測定検査を実施することで自己の状態を把握してもらい、動機付けを強化している。

平成 25 年度に終了した対象者（脱落、問診のみで評価した者を除く）の評価の結果を以下に示す。目標（体重 5%・腹囲 5 cm 減）以上に減少したものを「目標達成」、目標値には満たないものの体重・腹囲の減少があったものを「改善傾向」、不変または悪化したものを「改善なし」とした。積極的支援における体重目標の達成率は 19.4%（対前年度比 15.7% 減）、腹囲目標の達成率は 33.4%（対前年度比 2.8% 減）であった。平成 24 年度と比べてやや達成率が下がった結果となったが、「改善傾向」を含めると両支援ともに全体の 7 割以上の人に改善がみられた。

内臓脂肪測定検査の実施別にみると、体重目標の達成率が検査未実施者（食後検査者を含む）は 20.7%であったのに対し、検査実施者は 18.0%となっており、腹囲においても達成率は検査未実施者が 32.3%であったのに対し、検査実施者は 34.7%と大きな変化はみられなかった。しかし、「改善傾向」まで含めると、体重の改善率は検査未実施者が 79.9%であったのに対し、検査実施者は 81.3%となっており、腹囲の改善率は検査未実施者が 74.4%であったのに対し、検査実施者は 77.3%となっており、体重、腹囲ともに内臓脂肪測定検査実施者の人がより改善が伺える結果であった。

内臓脂肪測定検査はまだ実施者数が少なく大きな効果がみられていない。また、食事制限が完全でないため結果が不明瞭であるケースも多く、案内の周知徹底が課題であるが、引き続き積極的に検査を勧めている。

また、要治療者への受診勧奨を延べ 46 人に対して行った。重症度の高い参加者に対しては、まず医療機関の受診を優先してもらい、必要に応じて服薬治療と併行して保健指導を受けてもらうことで、安全で効果的な支援を行うことができる。引き続き、医師との連携を図り、参加者のリスクに応じて必要な対応を行っていききたい。

《平成 25 年度開始特定保健指導評価結果》

◎体重の変化（積極的支援）

単位:人(%)

区 分	目標達成	改善傾向	改善なし	計
内臓脂肪測定なし	34 (20.7)	97 (59.1)	33 (20.1)	164 (100.0)
内臓脂肪 100cm <sup>2</sup> 未満	15 (16.0)	63 (67.0)	16 (17.0)	94 (100.0)
内臓脂肪 100cm <sup>2</sup> 以上	12 (21.4)	32 (57.1)	12 (21.4)	56 (100.0)
総計	61 (19.4)	192 (61.1)	61 (19.4)	314 (100.0)

◎腹囲の変化（積極的支援）

単位:人(%)

区 分	目標達成	改善傾向	改善なし	計
内臓脂肪測定なし	53 (32.3)	69 (42.1)	42 (25.6)	164 (100.0)
内臓脂肪 100cm <sup>2</sup> 未満	42 (44.7)	33 (35.1)	19 (20.2)	94 (100.0)
内臓脂肪 100cm <sup>2</sup> 以上	10 (17.9)	31 (55.4)	15 (26.8)	56 (100.0)
総計	105 (33.4)	133 (42.4)	76 (24.2)	314 (100.0)

◎体重・腹囲の変化（動機付け支援）

単位:人(%)

区 分	目標達成	改善傾向	改善なし	総計
体 重	27 (17.8)	91 (59.9)	34 (22.4)	152 (100.0)
腹 囲	66 (43.4)	47 (30.9)	39 (25.7)	152 (100.0)

平成 26 年度は 21 市町 104 グループ、491 人の参加を得て平成 27 年度も実施する。積極的支援は内臓脂肪測定または肥満体質検査を参加者の希望に応じて実施し、さらに初回指導から個別支援を行っている。検査を自由選択できることで参加意欲の向上に努め、検査結果を視覚的に確認してもらうことで動機付けの強化を行うと同時に、より個人の状態に即した支援を提供している。また、初回や中間面談時に禁煙指導を実施し、特定保健指導参加者以外に対しても希望者に禁煙セミナーを開催するなど、健康管理事業全般として禁煙支援を行っている。

平成 26 年度末に、初回指導を終了している地域が 4 市町、第 2 回個別指導まで終了している地域が 5 市町、6 カ月後の改善度評価検査が終了している地域が 12 市町と計画通りに実施している。

(4) 特定保健指導 B 事業

a. フロー

◎積極的支援

区 分	実施項目	実施内容
初回	筋量測定 個別指導【30～60 分】	計測 個別指導「メタボリックシンドロームについて」 行動目標、体重と腹囲の目標値設定
2 週間後	郵送 or メール（1 回目）	コンピューター診断結果送付、状況確認、 励まし
1 カ月後	郵送 or メール（2 回目）	取り組み状況確認（体重、腹囲、血圧、生活習慣 改善目標の達成度、食事記入表）
1.5 カ月後	郵送 or 電話（3 回目）	アドバイス・励まし・支援コメント状況 聞き取り調査
2 カ月後	郵送 or メール（4 回目）	取り組み状況チェックシート配布 取り組み状況確認
3 カ月後	中間面接【30 分/人】	取り組み状況確認（体重、腹囲、血圧、生活）、 行動目標の修正、アドバイス
4 カ月後	郵送 or メール（5 回目）	励まし・賞賛
5 カ月後	郵送 or メール（6 回目）	状況確認・励まし・賞賛
6 カ月後	郵送【評価】	計測・アンケート調査 取り組み状況に応じた最終アドバイス

◎動機付け支援

区 分	実施項目	実施内容
初回	筋量測定 個別指導【30～60 分】	計測 個別指導「メタボリックシンドロームについて」 行動目標、体重と腹囲の目標値設定
2 週間後	郵送	コンピューター診断結果送付
6 カ月後	郵送[評価]	計測・アンケート調査 取り組み状況に応じた最終アドバイス

b. 目標

- 1) メタボリックシンドロームの改善（腹囲または体重の減量）
- 2) 生活習慣の見直しと改善

c. 結果

《平成 26 年度実施状況》

巡回場所	初回実施日	支 援	参加者数 (人)	
			小 計	計
事業所 A	1 月 26 日	積極的	2 (6)	4 (10)
		動機付け	2 (4)	
事業所 B	1 月 28・29 日	積極的	4 (6)	6 (13)
		動機付け	2 (7)	
事業所 C	2 月 2 日～25 日	積極的	39 (38)	75 (82)
		動機付け	36 (44)	
合 計		積極的	45 (50)	85 (105)
		動機付け	40 (55)	

\* ( ) 内は H25 の実績

《平成 25 年度開始特定保健指導評価結果》

◎体重・腹囲の変化年度比較

単位:人(%)

年 度		改善	改善傾向	改善なし	計
平成 23 年度	体重	31(22.2)	92(65.7)	17(12.1)	140(100.0)
	腹囲	52(37.1)	63(45.0)	25(17.9)	140(100.0)
平成 24 年度	体重	28(18.3)	98(64.1)	27(17.6)	153(100.0)
	腹囲	53(34.6)	60(39.2)	40(26.1)	153(100.0)
平成 25 年度	体重	50(48.1)	33(31.7)	21(20.2)	104(100.0)
	腹囲	59(56.7)	19(18.3)	26(25.0)	104(100.0)

◎体重・腹囲の変化(積極的支援)

単位:人(%)

区 分	改善	改善傾向	改善なし	計
体 重	24(49.0)	17(34.7)	8(16.3)	49(100.0)
腹 囲	27(55.1)	10(20.4)	12(24.5)	49(100.0)

◎体重・腹囲の変化(動機付け支援)

単位:人(%)

区 分	改善	改善傾向	改善なし	計
体 重	26(47.3)	16(29.1)	13(23.6)	55(100.0)
腹 囲	32(58.2)	9(16.4)	14(25.5)	55(100.0)

◎生活習慣の改善状況(全体)

単位:人(%)

区 分	改善	変化なし	悪化	計
栄養・食事	95(91.3)	9(8.7)	0(0.0)	104(100.0)
身体活動	47(45.2)	50(48.1)	7(6.7)	104(100.0)

◎生活習慣の改善状況(積極的支援)

単位:人(%)

区 分	改善	変化なし	悪化	計
栄養・食事	45(91.8)	4(8.2)	0(0.0)	49(100.0)
身体活動	26(53.1)	20(40.8)	3(6.1)	49(100.0)

◎生活習慣の改善状況(動機付け支援)

単位:人(%)

区 分	改善	変化なし	悪化	計
栄養・食事	50(90.9)	5(9.1)	0(0.0)	55(100.0)
身体活動	21(38.2)	30(54.5)	4(7.3)	55(100.0)

d. 評価

平成 26 年度の特定保健指導参加者は積極的支援 45 人、動機付け支援 40 人の計 85 人であり、前年度に比べ 20 人（うち積極的支援 5 人、動機付け支援 15 人）減少した。今年度は筋量測定（体組成検査）を初回面接時に実施した。体重、腹囲以外に測定結果から身体状況を知る事で、減量に向けての動機付けの強化を図った。検査導入による参加者の増加は達成できなかったが、参加者からは自分の筋肉量や脂肪量を知る事ができ参考になったとの意見が多く聞かれた。

平成 25 年度に特定保健指導を開始した参加者の評価を行った。初回と最終評価の計測値を比較し、体重は5%、腹囲は5cm以上減少したものを「改善」、基準には満たないものの体重・腹囲の減少があったものを「改善傾向」、不変または悪化したものを「改善なし」とした。腹囲については、最終評価時に特定保健指導の腹囲の基準、男性 85cm、女性 90cm 以下になったものは「改善」とした。体重と腹囲の平均値を初回指導時と最終評価時で比較すると、動機付け支援、積極的支援ともに減少が認められた。今年度は、「改善」と評価された方が体重で 48.1%、腹囲 56.7%と過去 3 年間で最も改善率が高かった。「改善」と「改善傾向」を合わせた割合は、体重が 79.8%、腹囲が 75.0%で 7～8 割に効果がみられた。しかし、「改善」が多かった一方で、「改善なし」も 2 割となった。初年度より上昇する傾向が見受けられ、効果のみられない方への支援のあり方に課題を残した。

生活習慣の改善状況については、積極的支援では栄養・食事は 91.8%、身体活動は 53.1%が改善できたと回答しており、動機付け支援では栄養・食事は 90.9%、身体活動は 38.2%が改善できたと回答している。体重、腹囲および行動目標（栄養・食事、身体活動）のすべてにおいて積極的支援の方が改善率が高いことから、継続的な支援がある方がより改善しやすいことが窺える。

アンケートからはセミナー全体を通しての内容について、8割以上の方が「非常に良かった」「良かった」と回答している。メタボリックシンドロームの改善にむけ、今後も継続した支援が望まれる。

(5) 特定保健指導 C 事業（来所型特定保健指導（人間ドック受診後））

a. 実施内容



b. フロー

◎積極的支援

区 分	実施項目	実施内容
初 回	個別指導【20分】	個別指導「メタボリックシンドロームについて」 自己評価(問診による生活習慣の振り返り) 計画の作成設定(データの改善目標・行動目標・行動計画・モニタリング計画の作成) セルフモニタリング支援
3カ月以上の継続的な支援	支援形態：メール・レター(2W・1M・2M・4M・5M) 個別指導(3M)20分	支援内容：状況確認、賞賛、励ましアドバイス、目標修正
6カ月後	評価(電話やメールなど通信等を利用)	取り組み状況調査(体重、腹囲、生活習慣、目標の達成度について調査)取り組み状況に応じた最終アドバイス

◎動機付け支援

区 分	実施項目	実施内容
初回	個別指導【20分】または集団指導【80分】	前段に準じる。
6カ月後	評価（電話やメールなど通信等を利用）	前段に準じる。

c 結果

《平成26年度実施状況》

単位:人

区 分	団体数	動機付け支援	積極的支援	合 計
事業所A	4 (6)	5 (7)	3 (2)	8 (9)
事業所B	2 (3)	5 (15)	7 (21)	12 (36)
事業所C	1 (3)	5 (1)	0 (2)	5 (3)
事業所D	1 (1)	27 (31)	15 (20)	42 (51)
総 計	8 (13)	42 (54)	25 (45)	67 (99)

\* ( ) 内はH25の実績

《平成25年度開始特定保健指導評価結果（評価対象96人）》

単位:人 (%)

区 分	判定A	判定B	判定C	合 計
計 測	41 (43.2)	42 (43.8)	13 (13.7)	96 (100.0)
栄 養	39 (40.6)	53 (55.2)	4 (4.2)	96 (100.0)
運 動	30 (31.3)	55 (57.3)	11 (11.5)	96 (100.0)

※判定A：良好 B：不変 C：悪化

d 評価

今年度は昨年に比べて2健康保険組合と1共済組合、2国民健康保険組合の実施が無く、団体数が5件減少した。実施数も、前年より32人減少し67人であった。特定保健指導も第二期を向かえ、経年対象者が受診を見合わせる傾向が見られ、各団体とも受診者数は減少している。評価結果では、計測で改善が見られたものが41人(43.2%)、栄養面で改善が見られたものは39人(40.6%)、運動面は30人(31.3%)であった。来所型の特定保健指導は、個別対応のため継続した支援も遅延する傾向にある。人間ドック当日の動機付けを強化するとともに、内容の見直しを図り受診者増を目指している。

(6) 特定保健指導 D業務

a. フロー

◎積極的支援

区 分	実施項目	実施内容
初回	個別指導【20分/人】	計測（体重、腹囲、血圧） 生活習慣調査票による問診記入 個別指導「メタボリックシンドロームについて」 行動目標、体重と腹囲の目標値設定
2週間後	郵送 or メール（1回目）	コンピューター診断結果送付、状況確認、励まし
1カ月後	郵送 or メール（2・3回目）	取り組み状況確認（体重、腹囲、血圧、生活習慣改善目標の達成度、食事記入表）
2カ月後	電話（4回目）	取り組み状況に応じた支援アドバイス 中間面接予約確認
3カ月後	中間面接【20分/人】	計測（体重、腹囲、血圧） 取り組み状況確認（体重、腹囲、血圧、生活）、 行動目標の修正、アドバイス
4.5カ月後	電話⑤	励まし・支援コメント、最終評価予約確認
6カ月後	評価（個別面接）【20/人】	計測（体重、腹囲、血圧） 取り組み状況確認（体重、腹囲、血圧、生活）、 最終アドバイス

◎動機付け支援

区分	実施項目	実施内容
初回	個別指導【20分/人】	計測（体重、腹囲、血圧） 生活習慣調査票による問診記入 個別指導「メタボリックシンドロームについて」 行動目標、体重と腹囲の目標値設定
3カ月後	郵送 or 電話 or メール	コンピューター診断結果送付、状況確認、励まし
6カ月後	評価(個別面接)【20分/人】	計測（体重、腹囲、血圧） 取り組み状況確認（体重、腹囲、血圧、 生活）、最終アドバイス

b. 目標

- 1)メタボリックシンドロームの改善（腹囲または体重の減量）
- 2)生活習慣の見直しと改善

c. 結果

《平成 26 年度実施状況》

実施時期	初回実施日	支 援	参加者数(人)	
			小 計	計
第 1 期	10 月 22 日、23 日	積極的	0 (3)	5 (16)
		動機付け	5 (13)	
第 2 期	12 月 16 日～22 日	積極的	2 (6)	22 (28)
		動機付け	20 (22)	
第 3 期	3 月 2 日～5 日	積極的	14 (30)	67 (93)
	3 月 9 日～12 日	動機付け	53 (63)	
合 計		積極的	16 (39)	94 (137)
		動機付け	78 (98)	

\* ( ) 内は H25 の実績

d. 評価

住民を対象とした巡回型特定保健指導は、平成 26 年度で 2 年目となる。今年度の参加者は 94 人で、前年度に比べ、積極的支援 20 人、動機付け支援 23 人の計 43 人が減少した。

3. 講師派遣

(1) 実施内容

実施月日	講演名	実施内容	参加者数
10 月 25 日	骨密度測定	・骨密度測定結果説明 担当：末本保健師	100 人
1 月 16 日	平成 26 年度 THP 健康 づくりセミナー	・健康セミナー「健診結果の見方と疾病予 防の生活習慣～生かして健診～」 担当：松本保健師	13 人
1 月 27 日	禁煙セミナー	・禁煙支援セミナー～あなたはなぜタバコ を吸うのでしょうか～ 担当：野間保健師	7 人
3 月 6 日	平成 26 年度 THP 健康 づくりセミナー	・健康セミナー「動脈硬化予防セミナー～ 血液さらさら生活のすすめ～」 担当：笠毛管理栄養士	21 人
合計 4 回 (合計 8 回)			延べ 141 人 (140 人)

\* ( ) 内は H25 の実績

#### 4. 健康教育に係る事業 ～健康相談事業～

##### (1) ねらい

健康診断や人間ドック受診後の結果を正しく理解し、改善すべき目標を明確化して行動変容への動機づけや相談を行い、対象者の健康増進に資する。

##### (2) 実施内容

##### a. 二次検査（定期健康診断再検査）

単位：人

内 容	医師、看護師（保健師）による事業所訪問（全 15 事業所、各月 1 回） 再検査の実施（一次健診後の二次検査）	
項 目	事業所	二次検査
実施結果	事業所 A	128(163)
	事業所 B	142(142)
	事業所 C	93(122)
	事業所 D	165(260)
	事業所 E	156(199)
	事業所 F	129(212)
	事業所 G	27( 39)
	事業所 H	45( 50)
	事業所 I	38( 26)
	事業所 J	28( 34)
	事業所 K	148(199)
	事業所 L	34( 28)
	事業所 M	27( 28)
	事業所 N	15( 17)
事業所 O	17( ー)	
合 計	15 事業所のべ 135 回	1,192(1,519)
報 告	各事業所とも毎月 1 回の二次検査を実施している。二次検査の実施数は、上の表に示すとおりである。なお、5 月・6 月・7 月は二次検査を実施していない。	

\*（ ）内は H25 の実績

#### 5. 人間ドックおよび診療

##### (1) ねらい

健康保険・共済組合被保険者、個人・団体会員を対象とした多項目総合健診。検査項目の組み合わせにより各種コースを設定し、疾病の早期発見、早期治療に努める。

また、生活習慣病治療のシステム化により、指導管理を実施する。

##### a. 人間ドック

単位：人

宿泊 ドック	一日ドック			半日ドック				受診者総数
	Sコース	Aコース	小計	Bコース	Cコース	Dコース	小計	
397 (379)	3,400 (3,385)	1,234 (1,164)	4,634 (4,549)	2,153 (2,095)	1,263 (1,137)	4,655 (4,346)	8,071 (7,578)	13,102 (12,506)

\*（ ）内は H25 実績

##### b. その他の検診・検査

単位：人

乳がん	子宮がん	マンモグラフィ	乳腺エコー	脳ドック	肺ドック	腹部エコー	骨密度	胃カメラ
1,472 (1,449)	3,788 (3,560)	2,971 (3,148)	961 (978)	225 (204)	249 (294)	7,966 (7,695)	999 (973)	1,772 (1,714)
アンチエイジングドック	動脈硬化ドック	更年期ドック	PET	MC-FAN	ストレスマーカ			
4 (4)	14 (45)	22 (18)	5 (7)	83 (93)	38 (65)			

\*（ ）内は H25 実績

c 事後指導

単位:回

項目	事業内容	実施数
健康管理指導	人間ドックの診察後、検査結果の説明、必要な二次検査の内容や受診方法、生活改善ポイントを個別に指導	7,483 (4,412)
診療栄養指導	人間ドック受診後再来した受診者に対して保険診療で栄養分析、栄養処方、指導を実施	313 (228)
運動負荷試験 運動指導	主に宿泊ドックの男性受診者に自転車エルゴメーターによる運動負荷試験を実施し個々の生活に応じた運動処方を作成	240 (227)
見える化健診 結果説明	ファン・ドウ・フィットネスの会員に対して、基本チェック(計測・体力測定・骨密度測定)、ロコモ度チェック(最大歩幅・ファンクショナルリーチ検査)、オプション検査を実施。結果説明と運動支援アドバイスを実施	19 (10)
合計 8,055(4,877)		

\* ( ) 内は H25 の実績

6. 特定外来診療(生活習慣病改善プログラム)

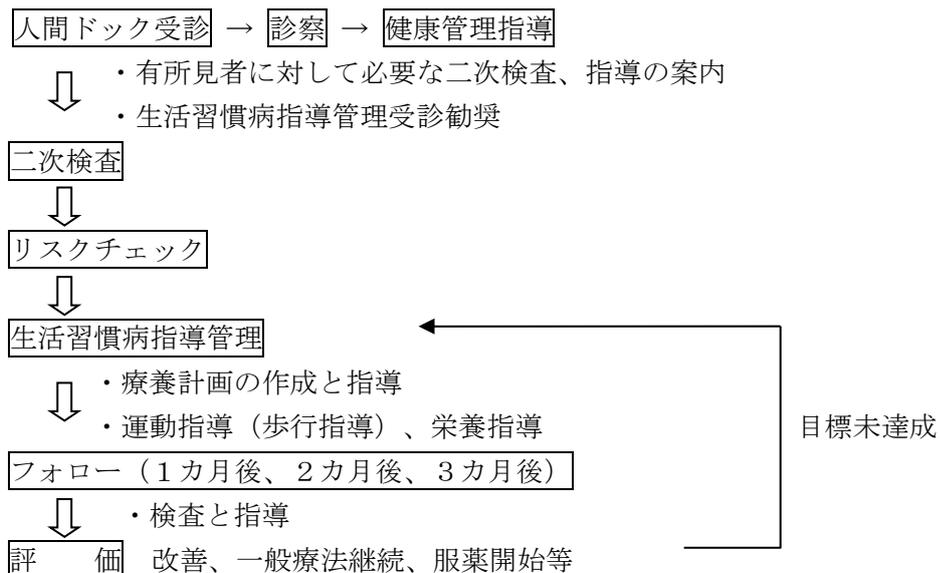
(1) ねらい

健診事後フォローとして、個々に応じた療養計画の作成と指導により、生活習慣病の早期治療・予防を図る。

(2) 実施内容

a. 管理体制

有所見者に対する 事後措置	生活習慣病のリスク者に対して、検査データ、家族歴、生活習慣も含めたリスクチェックを行い、個々に応じた療養計画を作成し指導する。基本的に計画は3~4カ月を1クールとし、この期間内に目標が達成できるようにほぼ1カ月ごとに指導し、最終月に評価のための検査を実施する。目標が達成できない場合は、再度計画を作り直し、指導を強化し正常化を目指す。
------------------	---



(3) 評価

26年度、療養計画を作成したのは新規が56(68)件、再度作成が52(44)件、合計108(112)件と昨年度とほぼ同数であった。再検査が中心となり継続した指導の件数は減少しているが、年間の診療栄養指導件数は313件と平成25年度より85件増加した。平成26年度の生活習慣病関連検査の実施率(件数/医師指示数)は糖代謝8.6%、血清脂質が8.0%であった。27年度は、課内の勉強会を通じて指導スキルのレベルアップを図るとともに生活習慣病指導マニュアルを見直し、外来指導の充実を図る予定である。引き続き受診勧奨に力を入れ、実施率の5%アップを目指している。

7. 精密検査

単位：人

標題	検査項目	実施件数	検査項目	実施件数	標題	検査項目	実施件数
内視鏡検査	上部	677( 695)	糖負荷試験	15( 45)	超音波検査	乳腺	4( 11)
	下部	377( 401)	便潜血検査	260(160)		腹部	160(182)
X線検査	胸部単純	157( 124)	尿一般検査	520(490)		心臓	83( 86)
	マンモグラフィ	6( 2)	細胞診検査	尿		甲状腺	83( 75)
	DXA	31( 26)				喀痰	3( 0)
	その他	29( 10)	心電図検査	56( 44)		頸動脈	161(153)
CT検査	頭部撮影	13( 6)	ホルター心電図検査	9( 6)		ドブラ	58( 18)
	頭部造影	0( 0)	睡眠ポリグラフィ(PSG)	73( 53)			
	躯幹撮影	502( 381)	肺機能検査	2( 9)			
	躯幹造影	7( 4)	脈波測定	14( 11)			

\* ( ) 内はH25実績

8. 職域および地域保健健診

(1) 定期健康診断および特殊健診

単位：人

事業内容	項目	受診者数
職域の労働者を対象とした労働安全衛生法に基づく健康診断	一般定期健康診断	42,002(44,127)
	雇入時健康診断	670( 599)
じん肺・有機溶剤・鉛・電離放射線・特定化学物質等 特殊健康診断		7,068( 7,480)
VDT・騒音・深夜業他行政指導に基づく健診、B型肝炎等の特定業務健診		16,017(17,178)

\* ( ) 内はH25の実績

(2) 特定健康診査

単位：人

事業内容	実施件数	受診者数
地域住民を対象とした高齢者の医療の確保に関する法律に基づく健康診断	1町(1町)	1,092(1,023)
	来所Gコース	151( 144)

\* ( ) 内はH25の実績

(3) 大腸がん検診(便潜血検査)

単位：人

事業内容	実施件数	受診者数
地域住民・職域労働者を対象に、免疫法による便潜血反応検査を実施	414事業所(377事業所)	9,906(6,619)
	1町(1町)	671( 611)

\* ( ) 内はH25の実績

(4) 胃がん検診（ペプシノーゲン検査） 単位：人

事業内容	実施件数	受診者数
地域住民・職域労働者を対象に、血液による胃がん検診（ペプシノーゲン検査）を実施	84 事業所 (97 事業所)	1,376 (1,228)

\* ( ) 内は H25 の実績

(5) 前立腺がん検診（PSA検査） 単位：人

事業内容	実施件数	受診者数
地域住民・職域労働者を対象に、血液による前立腺がん検診（PSA検査）を実施	85 事業所 (82 事業所)	382 (290)
	1 町(1 町)	125 (129)

\* ( ) 内は H25 の実績

(6) 肝炎検診 単位：人

事業内容		実施件数	受診者数
地域住民・職域労働者を対象に肝炎対策の検診を実施。検査内容は、HCV 抗体、HBs 抗原・抗体検査等	B 型 肝炎	72 事業所 (72 事業所)	1,166 (1,229)
		1 町(1 町)	196 (28)
	C 型 肝炎	42 事業所 (43 事業所)	464 (481)
		1 町(1 町)	196 (28)

\* ( ) 内は H25 の実績

(7) 生活機能評価（平成 23 年度より法改正により未実施）

9. 原爆被爆者健康診断 単位：人

事業内容		市町村数	対象者数	
原爆被爆者に対する援護に関する法律に基づく被爆者の健康診断。一般検査のほかに医師の指示による肝機能検査、本人希望により骨密度検査や多発性骨髄腫検査を実施		7 ( 8)	8,057 (9,186)	
受診者数	受診率	一般検査	肝機能検査	多発性骨髄腫
1,764 (2,048)	22.0% (22.3%)	1,764 (2,042)	1,764 (2,043)	866 ( 877)

\* ( ) 内は H25 の実績

10. 学校保健に係る健診

事業内容				
幼稚園、小中学校、高等学校の児童・生徒の諸検査および大学生の健康診断を実施				
尿検査	寄生虫卵検査	蟯虫卵検査	心電図検査	学生健診
21,825 件 (21,520 件)	68 件 (79 件)	8,598 件 (8,232 件)	5,248 件 (4,384 件)	10,545 人 (9,281 人)

\* ( ) 内は H25 の実績

1.1. 臨床検査技師法（登録衛生検査所）に基づく検査分析事業

単位：件

事業内容	事業所数	検査件数
食品衛生法、労働安全衛生法に基づく食品取扱い従事者、給食従事者を対象に、腸内細菌（赤痢・腸チフス・パラチフス・その他のサルモネラ）の保菌検索	985 ( 956)	31,988 (32,661)
腸管出血性大腸菌O157、病原性大腸菌群 ほか	4,120 (4,165)	27,013 (27,549)
合 計	5,105 (5,121)	59,001 (60,210)

\* ( ) 内は H25 の実績

1.2. 悪性腫瘍発見数

平成 26 年度に日本人間ドック学会に報告したがん症例数

単位:件

種 別	件 数	種 別	件 数
食道・胃・十二指腸	14(7)	前立腺・男性性器	1(2)
肺・胸膜	4(3)	膵臓	0(0)
甲状腺	4(6)	乳腺	0(6)
大腸・肛門	3(6)	腎臓がん	0(1)
子宮・女性性器	2(0)	膀胱がん	0(0)
胸部 NOS・縦隔・気管	1(0)	肝臓	0(1)
血液・造血器・リンパ節	1(0)		
合計 30(32)			

## IV. 社会貢献活動

### 1. 協会主体活動

#### (1) 天満川左岸美化活動

毎週1回、センター交代制で当協会周辺の河川敷および歩道の散乱ごみを回収した。

実施回数	概 要	参加人数	回収ごみ量
48回	場 所：横川新橋～中広大橋の区域 時 間：主に8：30～9：00	延べ232人 (延べ233人)	87.38kg (55.01kg)

\* ( ) 内は25年度実績

#### (2) 『天満川・自然観察&ウォーキングマップ』を活用した自然観察会

地元の広瀬北町および近隣の寺町、広瀬町の町内会と広瀬小学校の児童を対象に、23年3月に発行した『天満川・自然観察&ウォーキングマップ』を活用した自然観察会を開催し、18種類の野鳥が観察された。

実施回数	概 要	参加人数
1回	日 時：27年1月31日(土) 13：30～15：30 コース：環保協前⇒天満川(左岸側)南下⇒中広大橋⇒中広大橋(右岸側)北上⇒横川新橋⇒横川新橋(左岸側)⇒環保協前 内 容：コース上から確認できる野鳥の観察	31人

#### (3) ごみゼロ・クリーンウォーク

きれいなひろしま・まちづくり市民会議主催の「ごみゼロ・クリーンウォーク」に構成団体として参加し、指定コースの散乱ごみなどを回収した。参加人数は、協会役職員とその家族。

実施回数	概 要	参加人数
1回	日 時：26年6月8日(日) 10：30～12：30 コース： 公衆衛生会館⇒横川新橋⇒三篠橋⇒旧市民球場跡地 内 容：河川敷や遊歩道の散乱ごみなどを回収	123人 (119人)

\* ( ) 内は25年度実績

#### (4) 平和記念公園一斉清掃

特定非営利活動法人広島市公衆衛生推進協議会および広島市主催の「平和記念公園一斉清掃」に参加し、所定場所の散乱ごみなどを回収した。

実施回数	概 要	参加人数
1回	日 時：26年8月1日(金) 7：10～8：00 場 所：平和公園敷地内 内 容：指定された範囲の散乱ごみなどを回収	47人 (36人)

\* ( ) 内は25年度実績

## (5) 献血活動

協会職員と近隣の住民を対象に、400ml 献血を実施した。献血は、広島県赤十字血液センターの協力で、献血バスによって行った。

実施回数	概 要	申込人数	実施人数
1 回	日 時：26 年 8 月 21 日 (木) 13：30～16：30 場 所：公衆衛生会館	29 人 (29 人)	23 人 (24 人)
2 回	日 時：27 年 1 月 6 日 (火) 13：30～16：30 場 所：公衆衛生会館	34 人 (34 人)	27 人 (28 人)
合 計		63 人 (72 人)	50 人 (52 人)

\* ( ) 内は 25 年度実績

## (6) 環境協前天満川クリーン作戦

水環境の改善と環境美化意識の向上をねらいに、近隣の住民や事業所と協力して河川内と遊歩道の清掃を行った。

実施回数	概 要	参加人数	回収ごみ量
1 回	日 時：26 年 11 月 30 日 (日) 9：00～10：50 場 所：横川新橋～中広大橋の区域 天満川河川内および右岸・左岸の遊歩道 内 容：天満川の右岸・左岸の遊歩道に捨てられている散乱ごみの回収、河川内に捨てられている散乱ごみの回収	74 人 (88 人)	軽トラック 約 3 台分

\* ( ) 内は 25 年度実績

## 2. 健康科学センター主体活動

### (1) 広島医療ネットワーク (メネット広島)

#### ① 概要

広島県内の医師および大学関係者がインターネットを通じて医療情報の交流を促進し、地域医療の活性化と医療資源の活用を図ることを目的としている。当協会は、事務局として運営にあたっている。

② 実施内容

日 時	定例運営委員会・研修等	参加者
6月13日	第149回MENεT広島定例運営委員会	6人
7月11日	第150回MENεT広島定例運営委員会	9人
10月10日	第151回MENεT広島定例運営委員会	5人
1月23日	第152回MENεT広島定例運営委員会	5人
1月31日	第8回田坂メモリアルレクチャー1日目 講師：洛和会丸太町病院 救急・総合診療科医長 上田剛士先生 (会場：広大病院たんぼぼ保育園)	79人 (62人)
2月1日	第8回田坂メモリアルレクチャー2日目 講師：藤田保健衛生大学 救急・総合内科教授 植西 憲達先生 (会場：広大病院たんぼぼ保育園)	59人 (70人)
3月13日	第153回MENεT広島定例運営委員会	4人
	計	167人

※ ( ) 内は25年度実績

(2) 広島転倒予防研究会

① 概要

近年、高齢化の進展に伴って高齢者の転倒事故が原因となった「ねたきり」が増加しており、高齢者の転倒予防は緊急の課題となっている。当協会は、広島大学大学院保健学研究科と協働して、広島県における転倒予防の研究を推進し、同時に地域に対しても指導者の育成、知識や情報の提供を行うために、転倒予防教室を実施するとともに、当初より同会事務局として運営にあたっている。

② 実施内容

実施日	会議・研修等	出席者人数
5月20日	第38回転倒予防研究会世話人会	15人
7月13日	第39回転倒予防研究会世話人会	15人
7月13日	第14回広島転倒予防研究会学術集会(会場：広島医師会館) ●一般演題(6題) ●主題Ⅰ『運動器の機能向上と歯科』 座長：広島大学病院リハビリテーション科 助教 永富 彰仁 氏 講演：広島市立リハビリテーション病院 部長 吉田 光由 氏 ●主題Ⅱ『高齢者の転倒と栄養』 座長：広島大学大学院医歯薬保健学研究院 教授 花岡 秀明 氏 講演：名古屋大学大学院医学系研究科 教授 鈴木 裕介 氏 ●特別講演『住民主体の介護予防活動「いきいき百歳体操」の取り組み』 座長：呉共済病院 病院長 村上 恒二 氏 講演：高知市高齢者支援課 長谷川 雅人 氏	174人 (177人)
12月2日	第40回転倒予防研究会世話人会	13人
	合計4回	220人

※ ( ) 内は25年度実績

### (3) 広島県禁煙支援ネットワーク

#### ① 概要

禁煙支援ネットワークは、広島県内の医療保健ならびに学校教育関係に従事する人たちの広範な連携によって、たばこの害から県民の健康を守ることを目的としており、当協会は事務局として運営にあっている。

#### ② 実施内容

実施日	会議・研修等	出席者人数
10月5日	第23回運営委員会	13人
10月5日	広島県禁煙支援ネットワーク公開講座（第12回研修会） （会場：福山市医師会館） ●ポスター展示(研修会前後) 広島県禁煙支援ネットワーク会員・協賛企業等による展示 ●基調講演 『分煙なんてできやしない！』 広島県禁煙支援ネットワーク運営委員長 岩森 茂 氏 ●情報提供 ①『喫煙と、健康意識および、口腔内状況との関係について』 広島県歯科医師会 理事 上川 克己 氏 ②『パネルシアター実演 ももたろうの鬼助け』 福山市薬剤師会 理事 田口 直子 氏 ③『広島県医師会における禁煙推進活動』 広島県医師会 常任理事 津谷 隆史 氏 ④『事業所と連携した禁煙支援の取り組みについて』 全国健康保険協会 広島支部 保健グループリーダー 山田 啓介 氏 ⑤『心筋梗塞発症後の禁煙支援～禁煙外来と心臓リハビリテーションでの違いから～』 公立学校共済組合 中国中央病院 禁煙支援担当看護師 安藤 千里 氏 ⑥『イエローグリーンリボン運動』 福山市保健福祉局 保健部健康推進課 保健企画技術担当課長 二部野 肇 氏 ⑦『当院の喫煙状況と禁煙への取り組み』 福山市民病院 看護師 藤田 真由美 氏 ●特別講演『最近のタバコ問題 -受動喫煙を中心に-』 広島県医師会禁煙推進委員会委員長 川根 博司 氏	63人 (76人)
合計2回		76人

※（ ）内は25年度実績

今年度はたばこフリー社会を実現するために、禁煙した人、禁煙アドバイザーになっていただく人に提供するピンバッジを作成した。世界禁煙デーに向けた5月20日に完成し、6月24日には中国新聞に掲載された。5,000個作成し、現在ネットワーク会員や研修会へ参加した方をはじめ、禁煙支援活動に積極的な団体、個人への提供を行っている。



スモークフリーピンバッジ

## V. 関係団体事業への参加

### 1. 主な関係団体事業への参加

#### ① (公財) 予防医学事業中央会

期 日	行事内容	場 所	出席者
5月29日	全国運営会議	東京都：グランドヒル市ヶ谷	大岡センター次長
10月15日	全国運営会議	茨城県：ホテルレイクビュー水戸	大岡センター次長
1月23日	予防医学事業推進中国・四国地区会議	香川県：リーガホテルゼスト高松	大岡センター次長 新里課長 青山主幹 富士田主任 浜田課長補佐
2月25日 ～27日	技術運営会議および技術研究会議	沖縄県：市町村自治会館	上原課長 野間技師

#### ② (公社) 全国労働衛生団体連合会

期 日	行事内容	場 所	出席者
6月23日	全国労働衛生団体連合会総会	東京都：ホテル JAL シティ田町	甲斐センター長
11月19日	運営研究協議会	東京都：ホテル JAL シティ田町	甲斐センター長
2月12日	中国・四国地方協議会	山口県：全国労働衛生団体連合会	大浜課長補佐 横見主事

## VI. 事業報告の附属明細書について

26年度事業報告においては、一般社団法人および一般財団法人に関する法律施行規則第34条に定める「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものはない。

### 関係法令（抜粋）

#### 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 (平成十八年六月二日法律第四十八号)

##### 第三款 計算書類等

(計算書類等の作成及び保存)

**第二百二十三条** 一般社団法人は、法務省令で定めるところにより、その成立の日における貸借対照表を作成しなければならない。

**2** 一般社団法人は、法務省令で定めるところにより、各事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び損益計算書をいう。以下この款において同じ。）及び事業報告並びにこれらの附属明細書を作成しなければならない。

**3** 計算書類及び事業報告並びにこれらの附属明細書は、電磁的記録をもって作成することができる。

**4** 一般社団法人は、計算書類を作成した時から十年間、当該計算書類及びその附属明細書を保存しなければならない。

#### 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則 (平成十九年四月二十日法務書令第二十八号)

##### 第四款 事業報告

**第三十四条** 法第二百二十三条第二項の規定により作成すべき事業報告及びその附属明細書については、この条の定めるところによる。ただし、他の法令に別段の定めがある場合は、この限りでない。

**2** 事業報告は、次に掲げる事項をその内容としなければならない。

一 当該一般社団法人の状況に関する重要な事項（計算書類及びその附属明細書の内容となる事項を除く。）

二 法第七十六条第三項第三号及び第九十条第四項第五号に規定する体制の整備についての決定又は決議があるときは、その決定又は決議の内容の概要

**3** 事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。